



2020年1月27日

日本鉄道労働組合連合会

JR東海連合・JR東海ユニオン2020新春賀詞交歓会

労使の真摯な議論が「会社の発展」と 「組合員・家族の幸せ」を実現することを確認

1月8日、豊橋にてJR東海連合及びJR東海ユニオンは「JR東海連合・JR東海ユニオン2020新春賀詞交歓会」を開催した。来賓には、JR連合から荻山市朗会長をはじめ尾形泰二郎事務局長、今井孝治企画部長が、JR連合国会議員懇談会からは会長の榛葉賀津也参議院議員が、会社側からはJR東海金子慎社長をはじめグループ会社の幹部らが大勢駆けつけた。



冒頭、挨拶に立った鎌田茂中央執行委員長は、年末年始輸送の完遂を労いつつ、迫りくるダイヤ改正への対応や、オリンピック・パラリンピック輸送への意気込みを語った。また、JR連合荻山会長は、集团的労使関係の必要性を強調し「今、労働組合が役割を果たし続けるための正念場であり各種取り組みを力強く推進していかなければならない。仕事を与えられるだけでは、人生の充実は得られない。自ら関心を持って、労働組合を通じて会社の経営に参画していくべき。一人ひとりの声を会社は聞ききれない。持続可能で健全な労使関係を築かなくてはならない」と述べた。

JR東海金子社長は挨拶で、好調な業績を支えているのは組合員の尽力によるものと感謝を述べ、2020年の諸課題について触れたうえで、労使関係について「引き続き当社の経営理念をより高いレベルで実現していくためには、社員が十分に能力を発揮し、いきいきと仕事をする必要がある。それを支えるのは健全で強固な労使関係である。全職場総対話行動などを通じて、組合員の声を丹念にすくい上げ、それを会社が受け止め、真摯に議論し、お互いに知恵を絞って必要な方策を講じていくことは、労使双方にとって極めて大切な取り組みであり、『会社の発展』と『社員・家族の幸せ実現』につながっていく」と今後も重要視する姿勢を明らかにした。

なお、JRグループ会社社長からは、業務範囲が拡大する変化に備えて新たに労使共同宣言を締結した事例も紹介され、会場一体で労使関係の重要性を再確認した。